

令和7年度 江戸川区立船堀学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

|             |   |                            |   |
|-------------|---|----------------------------|---|
| 学校教育目標      | ○よく考え すすんで学ぶ子<br>○さいごまでやりぬく子<br>○思いやりのある 心豊かな子<br>○たくましく しょうぶな子 | 目指す学校像<br>目指す生徒像<br>目指す教師像 | ○子供が学びを通し、互いにかかわり合いながら思いを伝え合う学校<br>○子供や保護者、地域の思いに寄り添った導きのできる学校<br>○教職員が目標を共有し、互いの思いを伝え合い、新たな教育の創造ができる学校<br>○美しい学校（校内環境、言語環境の整った美しい学校）   |
| 前年度までの本校の現状 | 成果  | 課題                         | 学力向上において、A層とB層とにおいて、算数科の活用力に格差が生じた。習熟度別においては、それぞれの実態に応じた指導を行うと共に「思考力・判断力・表現力」の向上をねらい、考えを説明する場や他者と協働して課題を解決していく場を意図的に組み入れる。体力の向上にあっては、ストレッチタイムの改善を図りマンネリ化を防止するとともに、船スポタイム及び体育科の学習の充実を図る。 |

| 重点   | 取組項目  | 具体的な取組内容  | 数値目標   | 達成度 |    | 「中間」自己（学校）評価（A～D） |  | 「中間」学校関係者評価（A～D） |   | 「年度末」自己（学校）評価（A～D） |  | 「年度末」学校関係者評価（A～D） |  | 次年度に向けた改善案   |
|------|---|---|--|-----|----|-------------------|--|------------------|---|--------------------|--|-------------------|--|--|
|      |   |   |  | 9月  | 2月 | 評価                | コメント   | 評価               | コメント  | 評価                 | コメント   | 評価                | コメント   |  |
| 学力向上 | ○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実 | <ul style="list-style-type: none"> <li>区学力調査の実施と分析による個々の学習状況の把握し、個別の学習カルテを作成し、学習のつますきの解消に活用する。</li> <li>算数科においては習熟度別の課題に取り組み、中間層の底上げにつなげる。</li> <li>一人一台端末を活用した個別最適な学習・協働的な学習を進める。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシックドリル診断テストにおけるC及びD層を10%削減させる。</li> <li>主体的、協働的な学習にかかわる児童意識調査の数値を向上させる。</li> <li>中間層における活用問題の正答率を70%以上にする。</li> </ul> | C   | B  | B                 | 区学力調査にあつては区平均を4～14%上回る。診断テスト3年4月CD層25%、7月28%、6年4月CD層42%、7月64%となり未達成。4・5年生の学習カルテは活用中である。  | B                | 相対的に見れば学力のばらつきも小さく低下していないこともわかる。引き続き下位層の底上げに向けて力を注いでほしい。  | B                  | 区学力調査の結果からは他校と比較し学力差のばらつきが小さいが、CD層の底上げには課題が残る。   | B                 | 基礎基本においては繰り返し学習により定着を図っていくことが大事である。<br>問題の意味や内容を理解できていないことに起因する課題については、指導法を工夫していってほしい。   | 基礎基本の定着に向けて繰り返し学習を積み重ねる。<br>答えを出すだけではなく、仕組みを理解する、決まりや法則を見つける等の考え方を表現する学習をすすめる。               |
|      |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>よむYOMUワークシートの活用</li> <li>教科担任制の実施</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>4年生15回、5・6年生30回のワークシートに取り組み読解力を育む。</li> <li>教材研究、授業改善を進める。</li> </ul>   | C   | B  | B                 | 主体的な学習に関する質問紙では、肯定的な意見がR6が87.8%であり、R7が83.7%であり▲4.1%となっている。協働的な学習に関しては、R6が90.9%、R7が90.3%となり▲0.6%となっている。<br>記述問題における正答率の平均は45.8%となり、課題が顕著となった。 | B                | 対象児童が昨年とは異なることから、肯定的な意見における割合の減少からは学校の組織的な対応に原因は感じない。ほぼ9割の児童が肯定的にとらえているため、この水準を維持していかれることを期待する。 | B                  | 主体的、協働的な学習については、校内研究での成果を他教科に広げていくことが課題である。肯定的な意見に甘んじることなく、児童が自己の学習課題を見出し、主体的に学習課題の解決に取り組んでいけるように改善を進めていく。 | B                 | 学習の意欲は、学習が分かることや出来ることの実感に伴うところが大きい。そのため、児童個々が学習の成果を実感できるようにしていくことが重要である。<br>一人ひとりの実態に即した教材を用意したり、デジタル教材を活用したりして、どの児童にも「分かる」授業を展開する。<br>自分の考えを友達に伝えたり整理してまとめる時間を授業内で確保する。 | 一人ひとりの実態に即した教材を用意したり、デジタル教材を活用したりして、どの児童にも「分かる」授業を展開する。<br>自分の考えを友達に伝えたり整理してまとめる時間を授業内で確保する。 |
|      | ○読書科の更なる充実  | <ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書における探究的な学習（調べ学習）を進める。</li> <li>読書科、総合的な学習の時間を基に図書資料を活用した探究的な学習を進める。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>読書科ノートを活用した探究的な学習を行う。</li> <li>年間3回の学校公開の中で、読書科の授業公開を全学級で行う。</li> </ul>   | B   | B  | B                 | 定期的朝の時間を活用し、よむYOMUワークシート（新聞記事の読み取り）に取り組むことができている。<br>教科担任制を高学年の社会科・理科で実施し教材研究の時間が確保できている。  | B                | 話をよく聞けること、相手の意見を受け止められることが大切であり、このことが思考力や判断力に大きく関係しているため、このことを踏まえた指導をお願いしたい。                    | B                  | 日頃の学習のすすめ方においても、他者の意見をよく聞く態度を身につけていけるように一貫した指導を行っていく。聞く、考える、表現することを基盤とし、主体的、対話的、深い学びの実現を図る。                | B                 | 読書に読む機会を通して社会情勢について理解を深めることは意義を感じる。そのための読解力は必須であり、興味関心を高めながら読解力の高めていくことは   | 読書に触れた文章や社会問題に読解力の高めていくことは   |
| 体力向上 | ○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>始業前15分間を活用した全校運動遊び</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>年間35回以上の機会を設定し、多様な形式で数多くの運動遊びを経験させる。</li> </ul>   | A   | A  | A                 | 児童の主体的な活動として実施できており、東京都小学校体育研究会における実証授業においても、その成果を発表できた。   | A                | 3年間の継続が確かな力となっている。文部科学大臣賞を受賞したことも大きく評価できる。  | A                  | 児童が主体的に遊びを考え楽しみながら取り組むことができている状況を継続させることで、運動習慣の確立につなげていく。  | A                 | 授業改善が着実に進められ体力の向上として結果が表れていること、体育科に取り組む子供たちの意識が確実に向上していることに感謝する。   | 体育学習を児童自らがデザインした学習過程の中で楽しさや喜びをエネルギーにして学んでいけるものにする。   |
|      |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>ストレッチタイムの設定</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎日3時間目開始前に全校で一斉に行う。</li> </ul>  | A   | A  | A                 | 内容を学期ごとに変えるなど、児童の意欲を喚起しつつ継続できている。  | A                | 継続していることが結果として表れている、児童の意識を高めながら引き続き体力向上の取組として欲しい。   | A                  | 児童の実態を見極め、必要な取り組みを意図的、計画的に行い体力向上の基盤としていく。  | A                 | 3年間の取組が確実に実を結んできている、来年度以降も船堀小の伝統として継続していかれることを期待する。  | 習慣化できている朝の運動遊びやストレッチを継続し、体力向上の基盤とする。   |
|      |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>学期に2回のなわ跳び週間の設定</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>意識調査において、休み時間にすすんで外遊びをしているとの回答を80%以上にする。</li> </ul>   | A   | A  | A                 | 曜日ごとに運営担当を設定し、計画的に実施することができている。休み時間にすすんで外遊びをしているかとのアンケート（前期）では81.1%がYESと回答している。  | A                | 体育科の学習や始業前の運動遊び、ストレッチタイム、なわ跳びなどの取り組みが、児童の体力向上に向けた意欲につながっていると思われる。                               | A                  | 目的意識をもち、主体的及び協働的に取り組める活動を設定し、計画的に進めることで児童の体力向上を図る。   | A                 | 運動が苦手な子ども全体で取り組む中で、運動の楽しさを味わえるような取組であってほしい。配慮をもって継続してほしい。  | 目的意識をもち主体的に取り組める体育的活動を設定し、外遊びへの意欲、関心を向上させる。  |
|      | ○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級と通常学級の交流学習・教員研修</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>国語、算数の交流学習を行う。</li> <li>特別支援全体研修、特別支援授業交流研修を年間1人2回実施する。</li> </ul>  | A   | A  | A                 | 年間を通して交流学習を行うことができている。<br>特別支援授業交換研修及び交換授業においては、10月～11月期間中に計画的に実施し、児童の実態に配慮した授業力の育成につながっている。   | A                | 日頃から個々の児童に対応した学習が行われていることに感謝する。共生社会の実現に向けて相互理解は欠くことができない資質であり、本校の取組には大いに価値を感じる。                 | A                  | 特別支援学級の併設校としての利点を生かし、交流学習や交換授業、教員研修を計画的に推進し、個々の実態に即した学習を提供できるように取り組みを強化していく。                               | A                 | 共生社会の実現に向けて、大変意義のある交流であり取り組みであると感じる。互いに理解し合える取組となるように配慮をお願いする。   | 特別支援学級と通常学級との交流及び交換授業や教員研修を行う中で、個別最適な学習への授業実践につなげる。  |

|              |        |       |                     |  |  |   |   |   |  |   |  |   |   |   |  |   |
|--------------|--------|-------|---------------------|--|--|---|---|---|--|---|--|---|---|---|--|---|
| 教育の推進        | 表現在向けた | 共生社会の | ○ボランティアマインドの育成      | ・船堀ガーデンでの活動                                    | ・全校児童による花壇の維持運営を保護者ボランティアと共に行い、地域と一体となり進める。                        | A | A | A | 船堀ガーデンエンジェルズによる夏季休暇中の活動や理科栽培委員会を中心とした活動、ボランティア児童による休み時間の活動などがすすむと共に学校ボランティアと連携して行っている。       | A | 学校ボランティアが花壇の手入れをしているのをよく見かける。きれいな花壇は外から見ても学校への好印象となっている。引き続き連携しボランティアの意識を高めていって欲しい。  | A | 児童が協力して植物を育てることを通して、生命の尊さを実感し、豊かな心を育てているように、活動の機会を確保し意図的、計画的に船堀小ガーデンや校内の花壇を活用していく。                                | A | 船堀小ガーデンを見ると和やかな気持ちになる。学校ボランティアとの連携も意義を感じる。校内の花壇においても子供たちの自主的な取り組みを喚起させ充実させていってほしい。                                   | 船堀小ガーデンや校内の花壇において植物を育てる活動を通して豊かな心の育成を図ると共に地域と連携した活動を通してボランティアマインドの育成を図る。                                      |
|              |        |       | ○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実 | ・異学年交流「なかよし班活動」                                | ・音楽、図工、家庭、体育の学習において交流を行う。<br>・各種行事において共同学習を行う。                     | A | A | A | ・大塚ろう学校児童との交流学習、及び鹿本学園との文書交流を行っている。<br>・なかよし活動及びなかよし班フェスタ等によるい学年交流を計画的に実施している。               | A | 副籍交流及びなかよし班による異学年の交流が計画的に進められていることは評価に値する。相互理解をすすめ、尊重し合える関係構築につなげていって欲しい。  | A | 大塚ろう学校や鹿本学園との交流や、体験入学の機会を通して多様な価値観に触れる中で相互理解を深められるように活動を継続していく。   | A | 様々な体験をとして学ぶことで理解も深まる。引き続き大塚ろう学校や鹿本学園等との交流を大事にしていってほしい。   | 大塚ろう学校、鹿本学園との交流、体験入学の児童との学習を通して、多様な価値観を理解し、相互理解につなげていけるようにする。   |
| 不登校・いじめ対応の充実 |        |       | ○豊かな心の育成            | ・自尊感情を大切に生活指導<br>・道徳学習の充実                      | ・児童が集団に対して貢献できる場を設定し、自己有用感を育てる。<br>・全学級道徳授業公開を行う。                  | B | B | B | ・各学級での係活動や運動会での係活動など、児童が責任をもって行える活動を意図的に設定し実施してきている。<br>・2月14日(土)に道徳授業地区公開講座を予定している。         | A | 個々に責任をもち役割を果たし、やり遂げる経験や他者から認められることは自己有用感を高めることになる。引き続き意図的にすすめてほしい。   | A | 係活動や委員会活動など、児童が主体的に責任をもってやり遂げられる活動を保証しながら、自己有用感を高められるように支援を強化していく。  | A | 自分の役割に責任をもち進んでいく経験は、子供たちの自立に向けて欠かせないものである。うまくいかないことがあっても、しっかりやり遂げられるような支援をお願いする。                                     | 集団の中で個々に役割をもち、責任を果たす経験を通して、自己有用感を高められるような係活動や委員会活動等に取り組みできるようにする。   |
|              |        |       | OL-GATEの活用          | ・L-GATEにより児童の実態把握をすすめ、適時的な指導の推進                | ・年に1回校内でL-GATE研修会を実施   | C | B | C | ・LGATEを活用し、毎日の振り返りを児童の変化を早期に捉えた指導を行っているが、気づけない事案もあった。  | C | 一つのデータだけでは変化を図ることができない。意識を高め、日々の児童の様子から把握していくことが大切である。   | C | 児童に真摯に向き合い、日頃の児童の様子から変化を捉えられるように学級経営を中心に対応していく。   | C | 不登校やいじめの防止は学校における喫緊の課題と考える。関係機関と連携し、確実かつ丁寧なすすめてほしい。  | 児童との信頼関係の構築を基盤とし、LGATEを用いながら児童の変化を捉え対応していく。   |
|              |        |       | ○教育相談の強化            | ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化<br>・ひまわりルームの運用 | ・不登校児童とのSC、SSW連携率100%<br>・指導記録をもとに問題解決につなげる。<br>・学期に1回の不登校対策委員会を実施 | A | A | A | ・適時不登校児童の対応についてSC、SSWと連携し実施できている。<br>・心理士及び特別支援コーディネーター等による児童観察を通して校内で情報を共有し適時対応を行うことができている。 | A | ・ステップサポーターの活用も児童の登校支援につながっている。関係機関との連携をきゅおかし、不登校の解消やどこともつながりが持たない児童を出さないように配慮していく必要がある。<br>・過保護が不登校の要因になっているものもある。専門機関と連携しすすめてほしい。 | A | ・不登校対応として引き続きステップサポーターの登校支援やSCやSSWとの連携を行っている。<br>・不登校対策委員を中心に組織的な対応を継続するとともに、心理士等の専門家の助言を受けながら、個々の実態に即した支援を行っていく。 | A | ・学校だけでは対応が困難であることであり、保護者との連携を含めSCやSSW等の関係機関と適時、情報を共有し丁寧なすすめてほしい。<br>・学校だけが子供の居場所ではないので、どこともつながりのないことにならないように対応して欲しい。 | SC、SSW、ステップサポーター、校内別室指導支援員等との連携を図りながら、不登校対策委員会を中心に組織的に対応を図り、不登校の解消を目指す。<br>児童が安心して過ごせる場としての「ひまわりルーム」の運用を継続する。 |
| 地域に開かれた学校    |        |       | ○学校(園)ホームページの充実等    | ・学校ホームページの更新                                   | ・毎日更新を行う(年間200件の記事を掲載する。)  | A | A | A | 12月3日現在、130件の掲載となっており、達成率65%である。   | A | ホームページを見てもらえる工夫が必要である。学校からの配布物にホームページに誘導するQRコードを載せる等の工夫がほしい。   | A | ホームページの定期的な更新と共に、より多くの保護者、地域の方に閲覧してもらえるよう対策していく。  | A | ホームページの情報をより効果的に保護者や地域が閲覧できるように、学校だよりにQRコードを示すなどの工夫が必要がある。   | 教育実践の様子をホームページに定期的に掲載し、保護者や地域との連携をすすめ、開かれた学校を推進する。  |
|              |        |       | ○学校関係者評価の充実         | ・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施                     | ・アンケート結果を分析し1学期の評議委員会で報告する。<br>・2学期に実施する。                          | A | A | A | 11月末にアンケート実施し結果を2月14日の評議委員会にて報告を予定する。  | A | アンケートの結果を適切に学校運営の一助にしていって欲しい。  | A | 年間2回の児童アンケート及び学校関係者評価の結果を分析し学校運営の改善につなげていく。   | A | 前後期の児童アンケート、学校関係者評価については、開かれた学校を実践するにあたり、欠かせないことであり、しっかり活用してほしい。   | 学校関係者評価や各種アンケートを分析し、よりよい学校運営につなげていく。  |
| 教育の展開        |        |       | ○働き方改革の推進           | ・月1回の定時退勤日の設定                                  | ・全教職員の月残業時間45時間以下  | A | A | A | 4月～11月における残業時間において、45時間を下回ることができている。   | A | 持ち帰り残業等の隠れ残業がないようにしてほしい。業務量が変わらないのに、残業量を下げるのは無理があると感じるため、目標値だけが独り歩きしないように注意してほしい。  | A | 校務分掌を適切に割り振ると共に見直しをもった学校運営を行う中で、外部人材の活用を図りながら残業時間の減少につなげる。  | A | 教員のなり手不足が顕著になっている現状において、残業時間の問題は大きな要因にもなっている。実効性のある改革をすすめてほしい。時間外勤務時間の時間数にのみとらわれることのないようにしてほしい。                      | 校務分掌を適切に割り振り、見直しをもった運営を行うと共に、スクールサポートスタッフや学年アシスタントの活用をすすめる。   |
|              |        |       | ○イングリッシュキャラバンの実施    | ・ALT以外のネイティブスピーカーと英語を通してコミュニケーションを取る。          | ・全学級において3学期に実施する。  | A | A | A | 全学級において2月2日にイングリッシュキャラバンを実施し、ネイティブスピーカーとの交流を行う。  | A | 学習の成果を発揮する良い機会であると共に生きた英語に触れることで、英語への関心が高まると考える。   | A | 外国語学習の充実に加え、学級の成果を発揮できる場を設定し、外国語への関心や意欲を高めていく。  | A | 学習の意義を実感できる体験的な学習には意義を感じる。引き続き継続されることを期待する。  | 外国語学習の充実と外国語を活用する機会を創出し、外国語への関心や意欲の向上を図る。   |